

北イラク治安状況:概観

2018年7月15日～8月15日

項	目次
1	略語集とリスクレベル表
2	政治及び戦闘状況:概要
4	人道的状況

略語集

DTM	避難民追跡マトリックス
PKK	クルディスタン労働者党
SGBV	性別、ジェンダーに基づく暴力
IDP	国内避難民
IED	即席爆発装置
ISF	イラク治安部隊
IS	イスラム国
KRG	クルディスタン地域政府
HPE	Ezidkham 防衛隊
YBS	Yazidi Sinjar 抵抗部隊

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

本レポートの情報源として、以下の団体が提供するものを参照しています：

Mercy Corp Humanitarian Access Team (MC HAT), INSO, and websites including, but not exclusive, Institute for the Study of War, Chatham House, Human Rights Watch, Al Jazeera, SouthFront, Rudaw, Al-Monitor, iMMAP, and Reliefweb.

お断り:情報源の団体名は原文ママ)

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

免責事項: この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

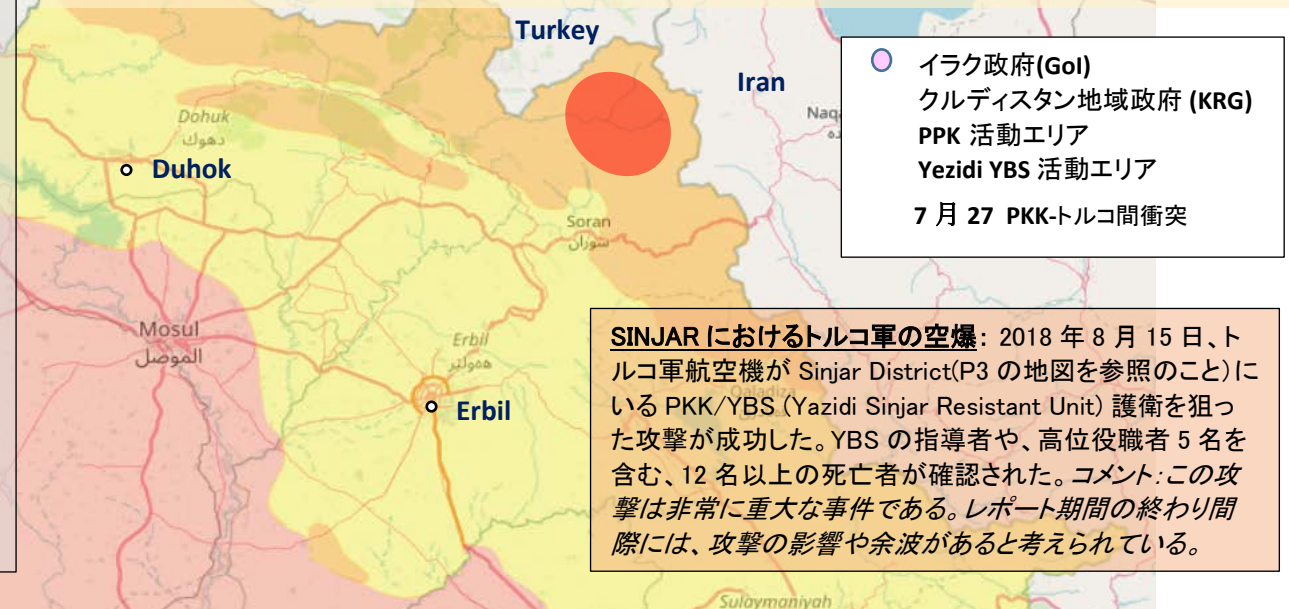
ロケーション	リスクレベル	コメント	今後の予測
Erbil, Duhok, Sulaymaniyah, Zokho 及び KRG 境界エリアへ直接繋がるルート(左記以外はリスクレベル高に分類される)。	中	国際 NGO がこのエリアにて直面したリスクのレベルは低いが、KFG とバグダット政府間の将来に渡る関係性に不確実性が残る。クルド系政治団体が、Bagdad に樹立された新政府からの利益を享受できる強い立場にいる可能性があり、それによって KRG へのアクセスが改善する。	*クルド系グループが Sairoon bloc に参加し政府を構成すれば、ビザ問題は解決するであろう。トルコ軍隊と PKK 間の衝突は今後も続く見込みで、トルコ軍による空爆も予想される。8月～9月の間にリスクレベルは低まで下がる可能性あり。
Kirkuk Governorate, Hawijah Governorate, Mosel, Telafar, Sinjar Districts, イランのトルコの国境エリア 10km 圏内	高	国際 NGO はこのエリアで活動しており、インターナショナルスタッフもこのエリアを訪れる。しかしながら、強力なセキュリティ運用手順及びコンティンジェンシープラン、十分に訓練を受けた有能なスタッフは必要不可欠だ。現地で活動する機関は更に高いリスクに対応できる高い基準値と高い回復力が要求される。	*近い将来、左記記載エリアの劣悪な治安状況の改善の見込みはない。国際 NGO の活動エリアが広がるに従い、彼らスタッフに対するハラスメントは増加するだろう。リスクレベルは高いまま止まる可能性が高い。

1. 政治及び戦闘状況: 概要

(地図出典: <http://syriancivilwarmap.com>)

選挙後の再集計: 2018年5月12日に行われたイラクの議会選挙は、現在の政府と対立するシーア派政治団体の議席を大きく増やす結果となった。しかしながら、不正行為の疑いの渦中で、7月に議会はマニュアルの再集計を命じた。再集計の結果は8月10日に発表され、元の結果とわずかな差があった。シーア派の指導者 Muqtada al-Sadr の政治的同盟、Sairoon は最大勢力となり、329議席中、59議席を獲得した。また、イラン系列 al-Fatih アライアンスは48議席を獲得した。首相率いる Haider al-Abadi's al-Nasr 勢力は3番目の大きさとなり42議席にとどまった。選挙から三ヶ月後、勝利した政党はまだ次の政権連立の構成交渉に巻き込まれている状態で、まだ結論に達するまでは時間がかかりそうだ。議会の最大勢力となった Sairoon は政府を形成するまでに3ヶ月の時間がある。しかしこの国には、待てない人たちが増大しており、主にシーア南方地方で、電力供給などといった様々なサービスの寸断と質の低さに抗議する人々が増え、抗議デモも頻発している。コメント: この状況は、議会で合計43議席を抱えるクルド系政治団体にとって好機となっている。彼らは一部のシーア系勢力を支援する見返りに、自治権や政府の資金援助を受けられるだろう。

ERBIL 及び DUHOK 行政区域: PKK とトルコ軍との武力衝突は北東イラクにおける衝突の主な原因となっている。7月には、上記2つの衝突により約90の事件が発生していると推測される。これは、狙いを定めた小規模な発砲や(主にトルコによる)間接的な砲火やトルコ軍による空爆も含まれる。トルコ軍は Erbil と Duhok 行政区域の山岳北部及び北東部に15以上の軍出先機関を保有している。衝突のほとんどはトルコ軍が仕掛けているが、2018年7月21日、PKK が Chiyadel と Khuwa Kurk Mountain から Erbil 北東部にかけて存在する4つのトルコ軍出先機関を攻撃し、それが大きな軍事衝突へと繋がった。この衝突の際、トルコ軍の航空機とヘリコプターが一つの山岳エリアにいる複数の PKK 拠点に空爆を実施した。両サイドに複数の死傷者が出たことが報道されている。コメント: 中期的に戦闘がなくなることは期待できない。

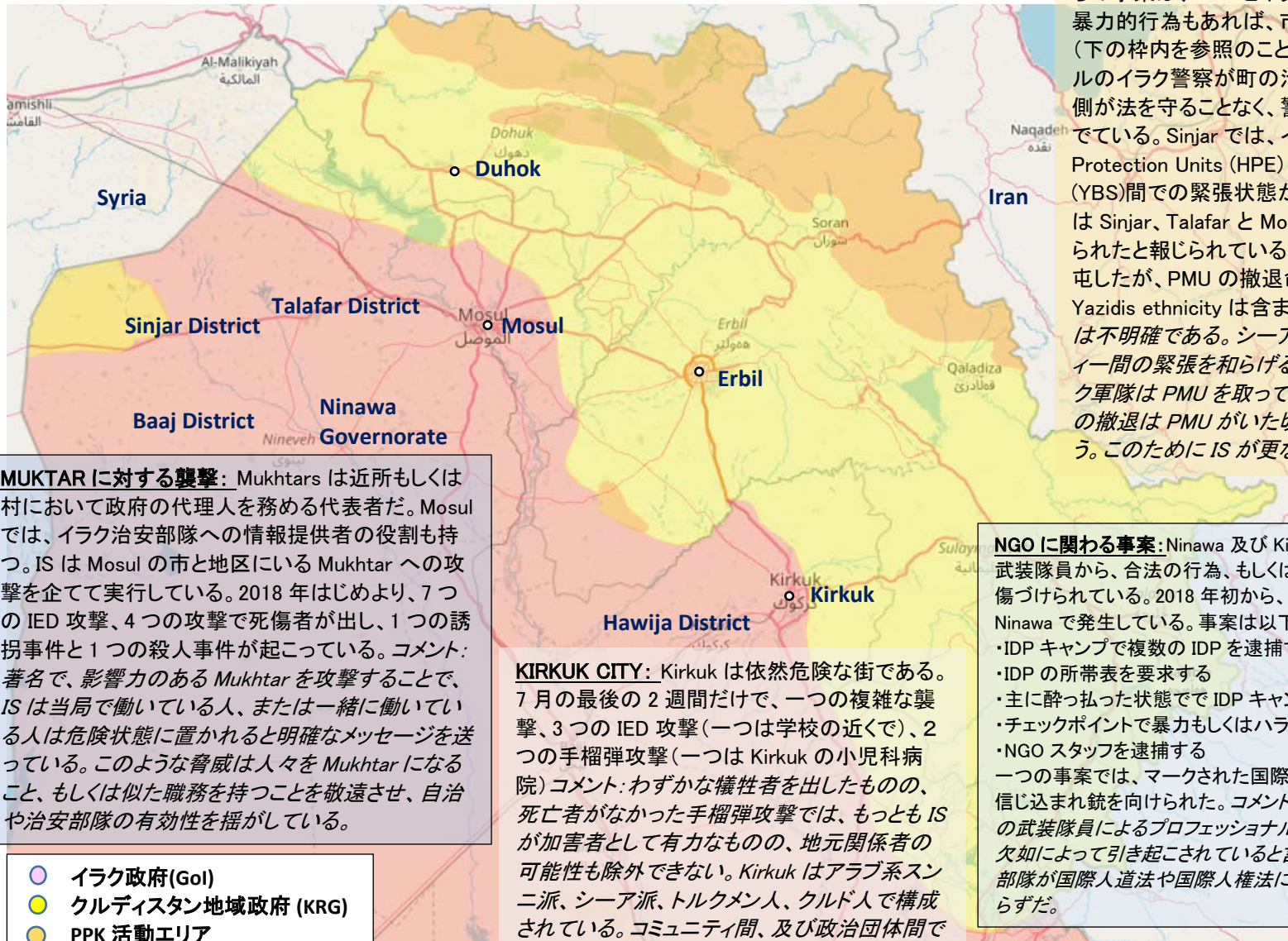


SINJAR におけるトルコ軍の空爆: 2018年8月15日、トルコ軍航空機が Sinjar District(P3の地図を参照のこと)にいる PKK/YBS (Yazidi Sinjar Resistant Unit) 護衛を狙った攻撃が成功した。YBS の指導者や、高位役職者5名を含む、12名以上の死亡者が確認された。コメント: この攻撃は非常に重大な事件である。レポート期間の終わり間際には、攻撃の影響や余波があると考えられている。

ERBIL CITY: 2018年7月23日、3人の武装した男が Erbil の行政区域ビルを攻撃し、数名を人質にとった。人質が囚われた状況は KRG 軍隊が突入するまでの数時間に及び、突入により人質は解放、2人の武装した男を逮捕し、残り1人は殺害された。当局はのちにこの立てこもり事件は Kurdish Islamic Group (KIG) のメンバーによって行われたと発表した。KIG とはクルド系の小さな政治団体で国民議会に2つの議席を保有する団体だ。この事件の前にあった、治安部隊による、団体の著名なメンバーの自宅攻撃に対する報復であろうと当局は主張した。コメント: この事件でクルド人政治の不安定性と、治安部隊の政治的中立性の欠如が際立った。90年代には、現在政治を率いる2つの政治団体の間で市民戦争があり、現代では2つの異なる治安部隊が、それぞれの政治団体と同盟状態にある。

8月10日にまた一人、国際 NGO の女性スタッフが、タクシーの運転手によって性的暴行を受けた。その同じ日、別の女性国際 NGO スタッフがタクシーの運転手によりつけられ、性的な関係を結ぶよう提案された。2018年の冒頭より、Erbil 市では15件目、16件目の被害報告が SGBV によって報告されている。14件目として報告された事案は、道でガム売りをしている少年が、男性のスタッフに同伴されているにも関わらず、女性の NGO スタッフが少年に身体的なセクシャルハラスメントを働いたという内容だ。コメント: これは ERBIL において絶え間なく発生している事案であり、一般的に SGBV の事案は過少に報告されていると思われる。事案の内容にはいくつかのパターンが存在する。日中のどの時間帯でも発生しており、男性の同伴有無に関わらない。また、身体的なセクシャルハラスメントだけではなく、言葉によるハラスメントもある。しかしながら、ERBIL だけに限らず Ankawa 近郊に国際 NGO が多く活動していることから、この地域でも多く発生している。多くの事案は車、もしくはタクシーにのった男性が被害者をつけ、襲うことが多い。

NINAWA & KIRKUK 行政区域: 北イラクを IS が支配している中、Ninawa & Kirkuk 行政区域の両方が IS に大きく支配されていた。ただし Kirkuk に関しては、Hawija District が主な支配地域だ。結果的に、現在両方の行政区域は、過ごとに IS の「残留」戦闘員によって、政府のローカルコミュニティの指導者や、政府の武装隊員(イラク警察、イラク軍、PMUs-(Popular Mobilization Units)- IS に対抗するための集められた軍隊で、政治的、道徳的に組織されたチーム)に対して攻撃を行なって



MUKTAR に対する襲撃: Mukhtars は近所もしくは村において政府の代理人を務める代表者だ。Mosul では、イラク治安部隊への情報提供者の役割も持つ。IS は Mosul の市と地区にいる Mukhtar への攻撃を企てて実行している。2018 年はじめより、7 つの IED 攻撃、4 つの攻撃で死傷者が出し、1 つの誘拐事件と 1 つの殺人事件が起こっている。コメント: 著名で、影響力のある Mukhtar を攻撃することで、IS は当局で働いている人、または一緒に働いている人は危険状態に置かれると明確なメッセージを送っている。このような脅威は人々を Mukhtar になること、もしくは似た職務を持つことを敬遠させ、自治や治安部隊の有効性を揺がしている。

- イラク政府 (GoI)
- クルディスタン地域政府 (KRG)
- PPK 活動エリア
- Yazidi YBS 活動エリア

2. 人道的状況

KIRKUK CITY: Kirkuk は依然危険な街である。7 月の最後の 2 週間だけで、一つの複雑な襲撃、3 つの IED 攻撃 (一つは学校の近くで)、2 つの手榴弾攻撃 (一つは Kirkuk の小児科病院) コメント: わずかな犠牲者を出したものの、死亡者がなかった手榴弾攻撃では、もっとも IS が加害者として有力なもの、地元関係者の可能性も除外できない。Kirkuk はアラブ系スンニ派、シーア派、トルクメン人、クルド人で構成されている。コミュニティ間、及び政治団体間で非常に大きな緊張状態があり、イラク治安部隊に対する抵抗勢力もある。

政府の武装隊員による虐待行為: Ninawa 行政地区では、主に Mosul と Sinjar District の周辺で、規律のない挑戦的で暴力的な行為が複数の政府武装隊員の間で度々見受けられる。これらの事案は、PMU とイラクの公式治安部隊の武装隊員間での暴力的行為もあれば、市民や NGO に向けられることもある。(下の枠内を参照のこと) Mosul では、2018 年 2 月以来、ローカルのイラク警察が町の治安を守る責任を負っていたが、PMU 側が法を守ることなく、警察と衝突をし、多くの場合で死亡者がでている。Sinjar では、イラクの治安部隊と PMU の Ezidkham Protection Units (HPE)、及び Yazidi Sinjar Resistant Unit (YBS) 間での緊張状態が見受けられる。8 月 9 日は、PMU 隊員は Sinjar、Talafar と Mosul 東の Baaj district からの撤退を命じられたと報じられている。彼らの代わりにイラクの武装組織が駐屯したが、PMU の撤退命令には Shabak, Christian, Turkmen, と Yazidis ethnicity は含まれていない。コメント: 撤退命令の理由は不明確である。シーア派 PMU と非シーア派の地元コミュニティ間の緊張を和らげることができたかもしれない。しかし、イラク軍隊は PMU を取って代わるほどの人力を十分におらず、この撤退は PMU がいた頃との治安状況に差を生んでしまうだろう。このために IS が更なる攻撃を仕掛ける機会を生んでいる。

NGO に関わる事案: Ninawa 及び Kirkuk 行政区域内の人道支援場は度々政府の武装隊員から、合法の行為、もしくは規律のない行動によって多くの者の尊厳を傷つけられている。2018 年初から、10 の事案が発生しており、その 7 つは Ninawa で発生している。事案は以下の通り:

- ・IDP キャンプで複数の IDP を逮捕する
- ・IDP の所持品を要求する
- ・主に酔っ払った状態で IDP キャンプの NGO スタッフを襲撃する
- ・チェックポイントで暴力もしくはハラスメント行為を行う
- ・NGO スタッフを逮捕する

一つの事案では、マークされた国際 NGO の車両が、爆発物自殺者と地元村民に信じ込まれ銃を向けられた。コメント: このような事案は国内 NGO スタッフが政府の武装隊員によるプロフェッショナルでない態度、及び、人道的規律への理解の欠如によって引き起こされていると言えるだろう。これは NGO 関連機関が、治安部隊が国際人道法や国際人権法について知っていることを確認しているにも関わらずだ。

IDP の統計とロケーション

- 2018 年 6 月 30 日時点、DTM は 3,904,350 の帰還民((650,725 家族)が故郷に戻ったことを確認した。
- 主な帰還場所は Ninewa 行政区域 (Mosul および Telafar)
- DTM は更に 2,002,986 の国内避難民(IDP) (333,831 家族)がイラクの 8 の行政区域、103 の地区と 3348 箇所に離散していることを確認した。

http://iraqdtm.iom.int/LastDTMRound/Round98_Map_Returnee%20dashboard_2018_June_30_IOM_DTM.PDF

シェルター: IDP 帰還民は主に4つのシェルターに集中している。Tikrit (5,730 名)、Salah al-Din の Balad (5,364 名)、Telefar (3,852 名) & 及び Ninewa 行政区域の Sinjar (1,314 名) だ。適切な設備とキャンプを出た難民の的を絞ったシェルター支援はニーズが依然高いためによりいっそうの注目を要求している。

保護:

特に Mosul city において、爆発性危険物汚染が帰還民にとって重大な脅威となっている。2017 年 7 月 10 日から 2018 年 5 月まで、国際 NGO は 130 近くの爆発性危険物の事案を記録しており、80 以上の事案において、約 190 人の市民が犠牲になっている。

慈善事業組織は、Anbar, Baghdad, Diyala, 及び Salah al-Din 行政区域といった複数の場所でキャンプの閉鎖による立ち退きが強制帰還が増えていることを報告している。

UNHCR パートナーの主要な懸念は児童労働が流行することである。

食糧保障と生活手段: 帰還民にとって最も必要とされていることは性格手段の確保であった。その解決方法には避難に関わる権利の新開、治安の改善、完全性と移動の自由を伴うことを求めている。

UN Food & Agriculture Organization (FAO) 予測によると、イラクの 2018 年の穀物収穫は 2017 年の収穫と比較して 11% 低くなる見込みで、2013~2017 年平均より 17% ほど低くなる計算だ。シリア難民にとってネガティブな対処方法を避け、彼ら自身及び家族が中長期的に持続可能な生活手段を作るためのニーズとギャップは避けられない。

水と健康:WHO は大凡 38%の Health Cluster 後援の医療施設が 7 月末で閉鎖のリスクに直面していることを報告した、理由は資金の欠如によるもので、潜在的に 900,000 人のもの人に影響を与える。引き換えに、救急や医療サービスには限定的なアクセスしかなく、二次、三次医療設備は、医療関係者の不足に悩まされている。Ninawa に帰還した人々において、安全な水へのアクセスが引き続き重要な関心事となっている。持病を持つ患者への薬の不足、また精神的医療、心理的サポートはキャンプ難民でない人々にとって未だ十分に提供されていない状況だ。気温の上昇に伴い、水へのニーズは増え、電力の提供時間の短縮が十分な水を行き渡らせることを更に難しくしている。

教育:多くの NGO は先生の教育、教育教材の提供や学校へのアクセスへ集中している。UNICEF はイラクの 63,500 以上の子供たち向けに教材および学習資材の提供を行なっている。資金ギャップは難民の教師へのインセンティブに影響すると予想されている。